

二〇一六年が開ける！

どんな年にしますか。

昨年中はお世話になりありがとうございました。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。昨年は、私にとって、節目を迎え、何か新鮮な思いで過ごしてきました。また人の心の温かさがに触れて、大変ありがたい一年でした。特に印象に残ったことは、初夏の時期に、伊勢方面に日帰りの研修旅行ができたことです。参加者五十人の皆様と出会い、親睦が深められました。また、お寺にいと、多くの参拝者との出会いで、一期一会の楽しみも感じさせていただきました。

現代は、超高齢社会、少子社会、老老介護、人口減少などと、社会不安の要素が一杯あります。そんな現実をどう克服していくかで生きる目標ができるわけではありません。ただ、何も見守るだけでは、心寂しく感じられません。今自分がなすべきことを思うだけでもいいことではないかと考えます。その時に行動を起こせば、大変立派な生き方ができるのではないのでしょうか。みな心が変われば、町は良くなるような気がします。とにかく、人間、弱らずに生きていくことこそ、しあわせなことではないかと思えます。昨日できたことが、今日できなくなることはたいへん悲しいことです。みんなが、元気で生きていくことこそ、生きがいを見出して、町は活気尽くと思えます。

まず身体が資本ですので健康に留意して、穏やかに過ごしてください。



しづきいにゆうなん じがげ
質直意柔軟 (自我偈の一句)

人生の中で幸せだと感じる時はどんな時でしょうか？

ある会社の社長さんは、幸せについて次のように話しています。

「幸せには三つあることを知っていますか。一番目は、赤ちゃんの時、お母さんからおむつを替えてもらったり、おっぱいを含ませてもらうという『してもらう幸せ』です。二番目は、成長して字が書けるようになったり、サッカーや野球がうまくなったりという『自分で出来る幸せ』です。なんでも自分で出来るようになると、偉くなった気がしてうれしいものです。でもその次があるのです。それは、『人にしてあげられる幸せ』です。相手が望んでいることを、してあげられれば喜ばれます。

そんな人は頼りにされます。してあげられる幸せは、三つの幸せの中でも最高のものです。

ところが、現代の私たちは反対に、赤ちゃんの様に『してもらう幸せ』ばかり求めて、不平不満を言っています。こんな世の中だからこそ、仏さまが説かれる「布施の心」すなわち『させていただけの幸せ』の心を持ち、生かさされている命に感謝しなければと思うのです。質直にして意 柔軟に (すなおで真つ直ぐ ころをやらわらかく生きよう。)

私たちには出来ることが沢山あります。しなければならぬことも沢山あります。良きことは皆に伝え、悪しきことは自らの心に納めましょう。過去のため、現在のため、未来のために。心柔らかに過ごすことであります。

涅槃会の案内

とき 三月十六日(木) 午後三時

※涅槃図をかけて、お釈迦様の入滅の涅槃経をお唱えして、お釈迦様の遺徳を偲び、団子まきをします。多くの人々に功德をもらっていただく

法要です。是非ご縁を結んでください。

御朱印のご案内

(一) 布袋尊 (不病長寿・無病息災・開運・良縁・子宝・夫婦円満・金運の神です。)

(二) びわ湖百人霊場

身体を浄めて、大蔵経の仏様、阿弥陀如来像に出会っていただけます。

是非、お参りして、朱印帳の朱印を集め、心改まる話を聞いてみませんか。

地域の繁栄を願う

今の日本のあり方に疑問を感じます。なぜなら目先のことに知恵を出して、党利党略に一生懸命に動いておられることに愚かでないかと思う。もと子や孫の代が幸せに生きられることに知恵を出してほしいと考えます。そこで、仏教に国を榮えさせる七つのおしえがありますので紹介します。

- (一) 人々がしばしば会合して政治を語る
- (二) 上下心を一つにし、相和しともに国事を議する。
- (三) 国風を尊んでみだりに改めず、礼を重んじる
- (四) 男女の別を正し、長幼の序を守る
- (五) 父母に孝し、師長に仕える
- (六) 祖先をあげめ、祭儀を行う
- (七) 道を尊じ、徳をあげめ、その教えを仰ぎ、厚く供養する。

これらの教えをよく守り、破ることがないならば、国の榮えること疑いなく、外国の侮りが無いのである。

自分の国を治める道は、まず自分を修めること

である。自ら慈しみの心を養い、この心を持つて国民に臨み、人々を教え導いて心の垢を除き去り、身と心を和らげて、世の中の楽しみにまざる正しい教えを得させる。

また、貧しいものが来たときは、蔵を開いて心のままに取らせる。そしてこれを手がかりにして、すべての悪から遠ざかるようにいさめる。

教えを尊び、心の正しい素直な人は木石にも瑠璃の光を見るのであるが、欲の深い人が見れば見ることができない。

国民の生活は、万事この通り、心がもとになり、国を治めることは、人々にその心を修めさせることである。

毎月法話会

毎月十五日に開催します。時間は午前七時半からですが、午前中は受付していただきます。

「玉泉寺住職日記」のブログに毎日更新しています。ご覧ください。

びんずる会の活動

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

ファークスの番号を変更しましたのでお知らせします。
(〇七七)五〇二―二七九

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇―三七〇八―七二〇六

Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp

新Eメール info@gyokusenji.com

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」
ごらん下さい。

※「玉泉寺住職日記」のブログも更新しています。